

「標準放射線医学」第5版

東京都立医療技術短期大学学長 有水 昇 監修
金沢大学教授 高島 力
九州大学教授 増田 康治 編集
東京大学教授 佐々木康人

神戸大学教授・放射線医学

河 野 通 雄

放射線医学は現代医学の全領域に必須の学問であり、これを1冊の本にまとめることは極めて困難なことであるが、昭和57年に有水、高島両教授の編集でうまくまとめられたのが本書の初版である。その第一版の序文では“国家試験に合格してから研修医に至るまで手放せない教科書”を基本方針の第一に挙げている。第5版にもこの方針が貫かれており、研修医はもちろん、実地医家や放射線専門医でも知識のrefreshや整理のためにも役だつように編集されている。特に基本的事項、重点項目が十分に把握できるよう配慮されている。また、本書の内容が陳腐化することなく放射線医学の最新の進歩に追随し、第一線の専門家によって執筆されているが、最新情報を網羅するために執筆者の入れ替えが行われ、今回は新たに16名の執筆者が加わっている。

本書の内容は放射線診断、診断手技を応用した治療法、放射線治療、防護と管理に大別され、更に放射線

診断は診断総論・画像検査総論と画像診断各論に分けられている。今回から、放射線医学の中で重要な位置を占めつつある interventional radiology についても、1つの章として独立させて内容の充実が図られている。総論では、digital radiography や磁気共鳴検査についてもかなり詳細に記述しており、各論でみる画像は臨床の場での画像診断に役だつ。また、画像診断各論では、国家試験のガイドラインに沿って編集がなされており、各検査法別に編成されている。更に、用いられる頻度順に検査法を配列し、総合画像診断を念頭に置いた新しい工夫がなされている。各項末尾には、鑑別診断と記憶・整理に役だつように疾患の各検査法別の特徴的所見が“疾患別異常所見のまとめ”として一覧表にまとめられ、充実が図られている。また、重要な画像診断サインには、写真と説明ばかりでなくシェーマが付けられており、理解を助ける工夫がされている。

放射線治療学については、総論で放射線生物学、治療原則、治療方法をまとめ、各論では腫瘍の型と好発部位、進展形式からみた治療法の実際が解説されてある。腫瘍の進展度については、最新版のTNM分類に準拠し、該当する箇所に適宜挿入されている。放射線障害、防護、管理の項に超音波・磁気などの安全性について記述されており、適切な企画である。

参考図書、索引を含み837頁というのはいささか handy とは言い難いが、わが国では文字通り最も標準的な放射線医学の教科書であり、これを完成させるために御苦労された編集者ならびに執筆者に対し敬意を表するとともに、学生諸君はもとより、放射線科研修医や一般医師にもぜひ推薦したい格好の参考書である。

●B5 頁896 図447 写真1,537
表159 1996 定価10,300円(税込)
〒520

医学書院 刊(☎03-3817-5657)